

2023年度 第2回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2023年6月28日(水)16時00分～18時00分
2. 場所 Web会議
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季
田川浩, 中澤祥二, 松井良太, 城戸將江 (記録)
(敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 02-00 2023年度第2回議事予定 (金尾)
- 02-01 2023年度第1回鋼構造座屈小委員会議事録 (案) (城戸)
- 02-02-01 2023年度鋼構造運営委員会第1回議事録 (案) (金尾)
- 02-02-02 重点審議 (座屈小委員会) (金尾)
- 02-02-03 鋼構造運営委員会重点審議メモ (金尾)
- 02-03 2023年度第2回鋼構造座屈小委員会メモ_松井

5. 議事内容

資料02-01

- ・資料02-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された.
- ・SSRCとの契約に関して, 学会としての方針の連絡が来次第報告する.

資料02-02-01～02-02-03

鋼構造運営委員会 (5/17) について, 次の議題について審議した.

●集中審議

金尾主査より報告がなされた. 座屈設計指針の改定方針に関しては, 囲みについて様々な指摘があったとのこと. 次のような意見が出された.

- ・教科書という表現は変えたほうがよい.
- ・囲みについては, 今回の改定では検討しないこととした.
- ・連続関数的に表しておけば, どのような設計体系に対しても対応できる.

今後, 重点審議で話した通りの方針で指針の改定を行うことを確認した.

資料02-00, 02-03

改定方針に関する議論を行った.

●新会長による提案と指針改定方針

「本会出版物のデジタル配信サービス」, 「設計規準指針の国際化」の2つがあり, 指針をパッケージ化してサブスクリプションとすることを考えられているようである.

上記の動きに対し, 次の点について議論がなされた.

- ・座屈設計指針の位置づけを明確にしておく必要がある.
- ・デジタル化について指針ごとにおける意味合いが薄れることは無いのか? →各指針ごとにデジタル化するためそのようなことはない.
- ・指針の内容について集中して作業する方針としたほうがよい.
- ・(倉田委員による情報) 2025年の3月までに各委員会の成果をデジタル化して, 委員会による成果が逸散しないような方策を考えたいとのこと (例えば諸問題2013の元原稿が無いといったことが起きないようにする). デジタル化した書籍はPDFで配布し, データをリポジトリ

に残すという依頼が委員会に来る可能性がある。

●教科書の内容について

structural stabilityをテーマとした海外の書籍について松井委員より紹介がなされた。次のような意見が出された。

- ・実務での取り扱いについて触れられるといいのではないか。
- ・海外の設計例は建築構造物ではなく土木構造物である場合もあるため、海外の書籍を参考にする場合は注意を要する。Direct Analysis Method(DM)についても、日本では地震で柱梁の設計が決まるのに対し、地震の少ない地域で使われる。ただ、参考書にはDMも入れたほうがよい。
- ・理論を集めただけでは教科書にならない。例題を多く入れ、日本独自の話を取り入れられと良いのではないか。
- ・他の本とは異なる、ということを出せるかどうかが大それたと考えられる。
- ・著作権の問題についても気を付けなければならない。
- ・指針ありきなため、指針の内容を先に決めないといけない。また、想定読者層を明確にする必要もある。
- ・指針のスリム化の目的を再度確認する必要がある。

議論を通じ、指針と教科書（参考書）を分けることになった。

教科書の内容は、初学者でもわかるもの、座屈設計指針としてわからないことがあれば見ればわかるというような内容としたい。

今後、指針の改定方針および教科書の内容についての議論が必要である。

次回委員会に向けて

- ・座屈設計指針の改定方針および教科書の内容については、各自検討を行い、次回の座屈小委員会の2週間前をめどに、意見を金尾主査、城戸までメール送付にて送付する。

その他

- ・欠席の中澤委員からはラチスシェル屋根構造設計指針改定小委員会はまだ実施されておらず提供できる情報はないとのこと。

6. 次回小委員会予定

日時：2023年9月中旬～10月初旬で日程調整する。

場所：Web会議